別紙２

「はちおうじっ子の未来をつくる探究的な学び」　授業改善チェックシート

場面	めざす児童・生徒の姿（授業改善の視点）　※留意事項等
全体	□①問いの設定・学び方の決定→②情報の収集→③整理・分析→④まとめ・表現→⑤振り返り、というサイクルで学習をすすめている ※サイクルそのものではなく、各教科等の目標や各学校の教育目標等で定められる資質・能力を育むことが大切です □見方・考え方カード等を活用し、どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのかという各教科等の物事を捉える視点や考え方を、総合的・統合的に働かせている □学んだ内容について、日常生活や将来の生き方と結び付けることで、「自分ごと」として捉えている □解決の道筋がすぐに明らかにならない課題や唯一の正解が存在しない課題などについて、試行錯誤しながら最適解や納得解を見出している □他の教科等で学習した内容を活かしている □自己の興味・関心や能力・特性に応じて学習を自己調整し、学習方法等を選択・決定している □異なる立場の他者と関わり、対話・協働する中で「意見の形成」や「対話と合意」につなげている □ICT 機器を効果的に活用するとともに、デジタルとアナログの良さを組み合わせている
問いの設定 学び方の決定	□自己の興味・関心や問題意識に基づき問いを設定している ※「日々の生活や将来の生き方にとってどのような意味や魅力があるか」、「他者や社会、自然にとってどのような意味や魅力があるのか」等の視点から問いを設定できるよう、学習対象との関わり方や出合わせ方等を教員が工夫することが大切です ※設定した問いは、試行錯誤の過程で児童・生徒の興味・関心の深まりや広がり等により変更してもよいです（一度設定した問いにこだわる必要はありません） ※教員を起点として学年・学級等で共通の問いを設定することもよいですが、児童・生徒個人を起点として問いを設定することとのバランスを考慮する必要があります □何を学ぶのか、どのように学ぶのか、誰と学ぶのかという視点から、自分に合ったスタイルで学習計画を立てている ※児童・生徒に学びを委ねることは放任することではありません。教員には、一人ひとりの学習状況等を把握し、「伴走者」として個別の支援を丁寧に行うことが求められます ※児童・生徒の実態に応じ、ある程度教員が学習計画を示し、計画の立て方を児童・生徒が理解できるように支援することも、時に必要です
情報の収集	□文献、観察、実験、見学、調査、探索、追体験などにより必要な情報を収集している ※学級・学年・学校の枠を超え、設定した問いに応じて専門性や得意分野を有する教員や地域人材等に相談できる環境があると理想的です □どのような情報を収集するのか、どのような方法で収集するのか、どのようにして蓄積するのかを考えている □収集した情報をポートフォリオやファイル、学習用端末上のフォルダなどに蓄積している ※必要に応じて学級やグループによる共同の蓄積方法を教師が用意することも有効です
整理・分析	□見方・考え方カード等を活用し、収集した情報について、「比べると（比較）」、「つなげると（関連付け）」、「見える角度を変えると（多面的）」、「共通点は（共通性）」、「異なる点は（多様性）」等の視点（見方・考え方）から整理・分析している □収集した多様な情報から、必要な情報や信頼できる情報を吟味したり取捨選択したりしている □数値化された情報は統計的な手法でグラフにする、言語化された情報はカードにして整理する等、情報の質や量に応じて整理・分析の方法を考えている
まとめ・表現	□探究した内容について、論述、新聞、レポート、プレゼンテーション、作品制作等、目的に応じた方法を選択してまとめ・表現している □誰に伝え、何のためにまとめるのか、という相手意識や目的意識が明確になっている □社会の一員として自分は何をなし、どのように生きていくのかという視点をもっている
振り返り	□学習内容や学習方法（学び方）、今後の学習改善への視点等、多面的に振り返ることができている ※振り返りの視点例として、「分かったこと・分からなかったことは何か」、「設定した問いは適切だったのか」、「学び方は適切だったのか」、「学習の前後で自分の考えはどう変化したのか」、「次にどのような計画で学習をすすめるのか」、「新たに生じた疑問や探究したい問いは何か」等を教員が提示することが大切です ※自己の学習の振り返りに加え、学習の中で見付けた仲間のよい学びについて着目できるようにすると、学習調整や協働的な学びが充実します